



綾瀬小だより

7月号
令和5年7月 1日
足立区立綾瀬小学校
校長 小坂 裕紀

「影響の輪」「関心の輪」

校長 小坂 裕紀

先月までの学校だよりでは、主体的に行動することについてお伝えしてきました。今回は、自分がどの位、主体的な人間が自覚する方法を紹介します。それは、**自分の時間とエネルギーを何にかけているかに目を向けてみる**ことです。誰でも広く様々な関心事（懸念することから興味あることまで）をもっています。健康や家族、友人、職場、国政…

関心の輪を描いて関心をもっていることと、知的にも感情的にも特に関心のないものに分けてみます。関心の輪に入れたことを見ると、自分がコントロールできるものとできないものがあることに気付きます。自分でコントロールでき、影響を与えられるものを影響の輪と呼びくります。

この二つの輪のうち、自分の時間と労力を主にかけているのはどちらでしょうか？

主体的な人は、影響の輪の領域に労力をかけています。自分が影響を及ぼせる物事に働きかけます。

一方、反応的な人が労力をかけているのは影響の輪の外であり、他者の弱み、周りの環境の問題点、自分にはどうにもできない状況に関心が向いています。こうした事柄ばかりに意識を集中していると、人のせいにする態度、反応的な言葉、被害者意識が強くなっていきます。**自分が影響を及ぼせる物事をおろそかにしてしまうと、影響の輪は小さくなってしまいます。**

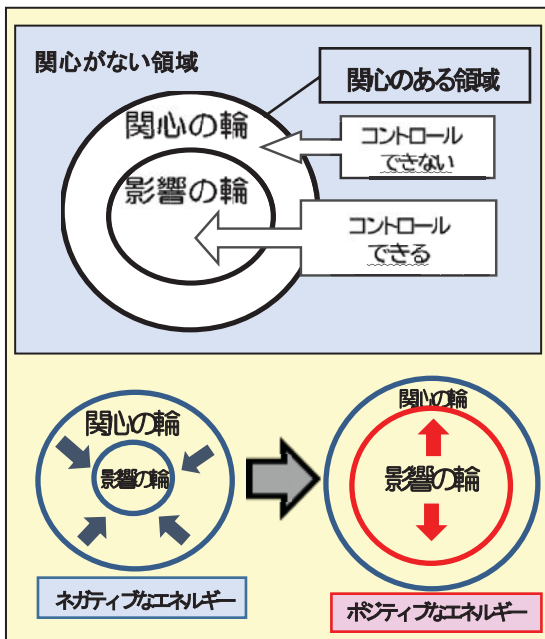
私たちが直面する問題は、次の三つのどれかです。

- 直接的にコントロールできる問題（自分の行動にかかわる問題）
- 間接的にコントロールできる問題（他者の行動にかかわる問題）
- コントロールできない問題（過去の出来事や動かせない現実）

自分が直接的にコントロールできる問題は、習慣を改めれば解決できます。

間接的にコントロールできる問題は、影響を及ぼす方法を考えることで解決できます。相手の立場に身を置いて考える。自分が模範になる。しかし、他者の行動を変えることは、ほとんどうまくいかず、逃避や対立ということになります。

いずれにせよ、それを解決する第一歩は、私たち自身が踏み出さなくてはならないのです。自分の習慣を変える。影響を及ぼす方法を変える。コントロールできない問題ならば、自分の態度を変える。**解決策はすべて、自分の「影響の輪」の中**にあります。



学校公開週間（前期）

12～17日に学校公開を行いました。のべ1600名を超える保護者の方にご参観いただき、また、来校時の名札の着用、上履き及び靴袋の持参等、ご協力ありがとうございました。一部、自転車での来校者があり、近隣の迷惑となっております。今後も自転車での来校はご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。

土曜日には、学校説明会、道徳授業地区公開講座も開催し多くの方にご参加いただきありがとうございました。

道徳授業地区公開講座では、足立区教育委員会教育指導課指導主事の川瀬穰先生を招聘しました。その中で、綾瀬小の児童のあいさつ、靴箱や道具の整理整頓のよさを褒められ、家庭での道徳教育の進め方として「よさ見つけ!」「自分らしさ!」「よく聴く!」ことを短時間でも実践することを教えていただきました。

